

## 夏の自然わくわくたんけん

藤田 隆（松戸市）

日 時：2018年7月29日（日）13～15時 天気：曇り時々晴れ  
場 所：21世紀の森と広場 パークセンター ～ みどりの里（松戸市）  
参加者：大人17名、子ども30名、指導員12名  
担当指導員：壺岐 野坂 藤田

「夏の自然わくわくたんけん」は、21世紀の森と広場が夏休みイベントとして開催する「夏の自然展」のプログラムの一つに加えてもらい、29日は園内「みどりの里」に広がるポイントを回って、草花遊び、昆虫などの生きものを虫アミで捕まえ観察する活動を通じて「自然をたんけん」し、自然との出会いを楽しむ催し。参加者は13～14時30分の間に受付し、ポイントを回りました。

1週間前に発生した台風12号が接近し、実施日当日は台風の通過後になることが分り、2日前に実施を決めました。台風の影響がどの程度か、実施が可能か、テレビやネットの天気予報を分析、相談し、21世紀の森と広場管理事務所と最終決定しました。

当日「たんけん」の看板を設営しながら、下見観察をしました。台風通過直後だったこともあり、午前中は曇天と晴天が瞬時に入れ替わり、にわか雨も降り出し、やむなくシラカシの下で雨宿りをすることになりました。最近、樹下での雨宿りとは無縁のため、樹下が以外にも雨を防ぎ、拾い物をしたような気になりました。参加者の出足を気にしながら、雨雲を恨めしく眺め、下見を終えました。

午後からは雨も上がり、13時のスタートから受付にはぼつりぼつりと参加者が集まりました。用意した自然わくわくたんけんのプログラムとは別に、参加者がたどるコース上にセミが羽化しているのを偶然発見し、参加者と一緒に観察しました。子どもたち以上に親世代がびっくりしていることに気づきました。自然を相手にしていると、台風に遭遇することもあれば、セミの羽化に偶然出会えることもあるのだと頷けるのでした。

各ポイントでは次のようなことがありました。「草花遊び」では、オオバコの葉をちぎり、出た筋の長さ比べをしました。シロツメクサは指輪やブレスレットの編み方を年代に応じて工夫して教えました。百日草を題材にした「虫の気持ちたんけん」は、今年初めての観察ポイントになりました。参加者は虫眼鏡をのぞき込み、虫の目になって花の構造を考えました。コスモス・ヒマワリと違って花の中の花の存在に気づかされました。ハス探検ではハスの葉の上に水滴を落とすとどうなるか考え、ハスの葉の構造が私たちの暮らしに応用されていることを説明しました。ハスの葉を茎ごと切り取り、茎のストローで息を吹き込むと、どうなるのかを実験しました。「はさがけクイズ」では、はさがけは何のために掛けられているのかを問うクイズ形式にしました。公園の企画で子どもたちが田植え体験する水田であり、「夏の自然ワクワクたんけん」のポイントに、コメを作る水田が組み込まれているのは意味のあることだと思いました。クサギを使った「においたんけん」は、来年に向けて、テーマと材料選びに工夫の必要性が指摘されました。季節に合わせた五感を使うテーマ設定が求められている気がしました。「ドングリをさがせ」ではシラカシの1年目のドングリ、2年目のドングリを見つけて、秋になって、ドングリ探しに来よう伝えました。

「いきものさがし」は虫アミを使って生きものの探しをしました。アミの使い方、虫のとらえ方、アミに入った虫の取り出し方など指導が必要でした。この企画に参加した子どもたちは生きものとの接し方に触れたからいいけれど、昆虫に限らず、生きものとの付き合い方は誰から教えられるのだろうと疑問符が浮かぶのでした。



自然展の受付